



これまで経緯

前号でお伝えしたように、幹事会では会報のホームページ（以下、HP）化とHPの充実を図るために、二〇〇六年十一月の幹事会で、HP企画・編集委員を4名、選出しました。これは、これまでのHPや会報の運営が事実上、それぞれ一名の担当幹事によって行われてきたため、時期によってはオーバーワークになる場合があることに加え、運営技術移転ができないために、幹事の改選に伴う引継ぎが難しくなることも理由の一つでした。

HP企画・編集委員は、その後、随時、意見交換をしてきましたが、二〇〇七年一月の幹事会で左の方針報告をしています。

本号では、会報HP化への流れの説明とともに、報告内容と幹事会での検討内容を報告します。

■会報のHP化について

かつて会報は、愛知県技術士会や中部支部に関する情報提供のための重要な位置づけを持っていました。

しかし、インターネットが一般の人々にも広く深く利用されるようになり、愛知県技術士会がHPを運営するようになると、情報提供ツールとしての機能はHPが果たすようになりました。

そのため、「お知らせ」については、すでにHPに移行されています。

いわば読み物である「湖海の士」のみが会報の存在理由となっていたことも事実です。そこで、会報のメインコンテンツである「湖海の士」を、会報の完全HP化に先駆けて、HPのコンテンツとして独立掲載することとしました。

この場合、郵送会員の扱いをどうするかHP化を実現する上での重要な課題になります。

現在、会報を郵送している会員は二〇名です（名簿に関する確認の中で、若干、増えました）。その大半はご高齢の方であり、愛知県技術士会の発展に尽くされた功労者でもあります。HP化による実際上の不便はほとんどないと考えられますが、何らかの理由で会報をペーパーベ

ースで受け取りたいという意向の方が現実にお見えであるということから、現在、郵送している方については、郵送を継続することとしました。

例案内のように即時性の必要なものはFAXによる送信（現在、郵送している会員全員がファクシミリ所有）とし、「湖海の士」などのコンテンツは年に二回、出力して郵送する予定です。

しかし、HP化の趣旨から、新たな郵送希望の受け付けはしないこととしました。

■HPの充実について

会報のHP化の実施は、会員各位のこれまで以上のHP活用を前提とするものです。そのためには、会員

各位のHP利用を促進するコンテンツの充実が必要になります。そこで、企画・編集委員会では、左の活用促進策を提案しました。

●掲示板への積極的な書込み

愛知県技術士会のHPには掲示板があり、会員相互の交流が図れるようになっています。

掲示板機能は、インターネットのもつ即時的な情報交流能力を活かすことのできる優れた機能ですが、現段階では、あまり利用がありません。利用頻度が低い理由については、いくつか推測できますが、掲示板を開いた時に、なんら書き込みがなければ、新たに書き込みをしようとする気持ち起きないのは当然のことです。

そこで、とりあえず企画・編集委員同士で書き込みを試みることにしました。

●HP充実コンテンツ企画（予定）

会報のHP化と平行して、HPのもつ即時性を活かした情報提供をテーマにコンテンツの充実を図っていくことになりました。

基本的には部会活動の報告、主催イベント（2月の「ふれあい技術士プラザ」で提出してもらおう自己アピール書の掲載等）や、「なごや環境大学」のページの新設が企画されました。これらについては、随時、実現していく予定です。

そのほか、今後の企画として、新入会員の紹介、会員相互による「技術Q&A」などの新企画を検討していくとともに、会員からの新たなコンテンツ提案を受け付けます。

●HP運営の課題

これらの企画の実現と継続は、HPを魅力的なものにし、利用度を高めるために重要なものばかりであるといえます。

しかしながら、企画が増えればそれだけ運営者の負担も増えます。また、持続的な運営を図るため、担当幹事の改選に伴う技術移転を容易に標準化しておく必要もあります。

実際、現段階ではHPへのコンテンツのアップは、一人の担当幹事に集中しています。これはHP管理上、やむをえないことでもありますが、そのため、他の企画・編集スタッフの連携と、なにより愛知県技術士会の会員の皆様との連携が課題となります。具体的にはコンテンツアップのための運用マニュアルの作成、提供される原稿・映像の標準化が今後の課題となります。

もう一つの課題は、HP掲載基準です。つまり原稿の事前確認をどうするかということです。

このHPは、技術士資格を有する者の執筆が前提ですから、公序良俗に反する原稿はないと考えられますが、その信頼を技術的内容（無断引用、意図的な盗作）、反社会的思想にまで拡大し、ノーチェックで掲載してよいか、という問題です。

この点については、企画・編集委員会でも議論が分かれたところですが、結果として、「日本技術士会ウェブページ掲載の手引き」に準拠し、これをアレンジして手引きを作成することとしました。

以上
次号が独立した会報形態の最終号となります。